

中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひこと未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285 vol.11



ごあいさつ ～鮭も、そして若者も戻れるまちへ～

真岡市議会議員としての任期も、残すところあと1年となりました。市民の皆様には常に温かいご支援、ご声援を賜り、心から感謝を申し上げます。

これまでの3年間を振り返ると、真岡市は市町合併や芳賀赤十字病院の医師不足など、これまでにない数々の大きな課題に直面してきました。そうした場面に議員の1人として立ち会い、幾度となく発言できたことは、私にとりましても貴重な経験だったと感じています。

いよいよラストスパートに入る今年、私は最も取り組みたかった「若い世代が誇りを持って戻り、住めるまちづくり」に挑んでいきたいと考えております。しかし、この余りにも壮大なテーマを実現させていくためには、私1人のアイデアや熱意だけでは限界があり、市民の皆様から寄せられる多くのご提言が必要不可欠となります。これまで以上のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

昨年秋、市役所脇を流れる五行川には約300匹の鮭が戻ってきたという話を聞きました。鮭も、そして若者も戻れるまちへ。未来を見据えた着実な歩みを踏み出していきたいと思う次第です。

真岡市議会議員 中村 和彦

※公職選挙法により、議員が年賀状による新年のあいさつを行うことは禁止されています。ご了承下さい。



市民と市政のかけ橋になりたい!

☆お気軽にお声をかけて下さい。

お友達との井戸端会議、勉強会等、2〜3人でも結構です。どこへでもお伺いいたします。

☆あなたのアイデアを市政にいかしたい!

お気づきの点がございましたら、どんな小さなことでも結構です。ぜひご意見を!

12月定例議会 質疑・一般質問

12月定例議会の質疑、一般質問が8日(木)、9日(金)の2日間にわたって行われました。中村は8日の6人目に登壇し、

1. 「真岡市に収入役を置かない条例」の制定について
2. 「市勢発展長期計画基本構想」について
3. 国際交流・多文化共生のまちづくりについて
4. 真岡鐵道の関東鉄道、つくばエクスプレスとの連携強化について
5. 介護予防筋力トレーニングについて
6. LDやAD/HDの子ども達への対応について
7. 学校図書館の充実化について

という7件の課題について質疑・一般質問し、執行部の考えをたどりました。(中面に関連記事)



一口メモ

今回は26人の議員のうち14名が質問を行いました。これだけ多くの議員が登壇したのは「おそらく初めてのこと」(ベテラン議員談)のようです。

議会が活発になっていくのは本当に嬉しいことであり、私自身も新たな“やる気”をもらったような気がしました。

傍聴席から

以前から市議会を傍聴したいと思っていましたが、なかなか踏み切りがつかず行けませんでした。今回初めて傍聴に行ったのですが、中村議員の歯切れのいい、的を得た質問に、私も、若者が頑張っていることを知って頼もしく思いました。

ただ残念だったのは、傍聴者が少ないことでした。初めて行った私がこんなことを言うのは申し訳ないのですが、これからの真岡市をより良いまちにしていきたいためには、市民1人1人が、市政に関心を持つべきだと思います。市も議会開催日をもっと宣伝して、傍聴を呼びかけてみてはどうでしょうか。

太田黒 健治さん(熊倉町在住)

若さ 行動力 現場主義

今年も全力投球で挑みます!!



若い世代との意見交換



鳥取県の片山知事と
(清溪セミナーにて)



32歳の新入生…
明治大学公共政策大学院(夜間部)
に現在通っています。



地元・大谷地区の夏祭りにて

次回発行予定日

4月9日(日)

次回の「中村かずひこ通信」は

発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。

「見逃した」という方に
バックナンバーをお送りします

これまで「未来をつくる会」では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜10号までを見逃された方は、お気軽にご連絡下さい。
こちらからお送りさせていただきます。

LDやAD/HDの子ども達への対応 についての続き

質問 特殊学級を持たない小規模校で、特別支援教育の実施は可能なのか。教育環境が整わず、LDやAD/HDの子ども達が転校を余儀なくされる事態だけは避けるべきと考えるが。

答弁 特別支援教育の目的は、LDやAD/HDの子ども達に対して、それぞれのニーズに応じた指導を行うところにある。小規模校においても、当該児童・生徒の把握、保護者や関係機関との連携を図りながら個別の指導計画を作成するなど、校内全体で支援をしているところである。

質問 現在の特殊教育が特別支援教育に移行する際、特殊学級に在籍している児童・生徒の対応はどのようになるのか。子ども達が養護学校等への転校を強いられるならば、特別支援教育のあり方そのものに疑問を呈さざるを得ない。

答弁 特殊学級に在籍する児童・生徒については、多くの時間を特別支援教室において特別の指導を受けることが適切であると考えている。現在の特殊学級の長所を生かした指導をしていく方針である。

学校図書館の充実化 について



質問 学校図書館法の改正により、平成15年度から12学級以上ある学校には、司書教諭が置かれることになった。しかし、司書教諭は授業も受け持っているため、図書館業務に専念できておらず、学校図書館の環境は改善されていない。PTA等の協力を得て、ボランティアの学校司書を配置することはできないのか。小規模校が多い真岡市の場合、司書教諭すら配置されていない学校もあるため、有効な手段と考えるが。

答弁 市内小中学校の一部には、保護者や地域の方々ボランティア活動により、本の読み聞かせ、図書の整理、データベース化等のご協力をいただいているところもある。学校図書館については、専任の司書を配置することが望ましいので、様々な機会を捉えて、保護者や地域住民に、学校司書のボランティアとしてご協力していただけるよう働きかけていきたい。

質問 学校図書館の図書購入費を、平成14年度と今年度で比較すると、小学校で15.8%、中学校で18.8%も減少している。このことは、近年教育界で叫ばれている「自ら学び、自ら考える力を育成する」という理念に逆行していると思う。今後、改善していく考えはあるのか。

答弁 学校訪問を通じて、今の子ども達は意思を伝達する能力や表現する力が弱いということを感じている。こうした弱点を克服するためには、読書活動等を通じて読解力を高めることが必要と考えている。現時点においても、学校図書館の蔵書数は国の水準を超えているが(小学校→159.6% 中学校→164.2%)、今後とも充実に努めていきたい。

要望 学校図書館の充実化について

真岡市はこれまで「教育日本一のまちづくり」を目指してきたが、感受性を磨く、表現力を豊かにするという部分は、未着手だったのではなかろうか。近年、インターネットに絡むトラブルや犯罪を見聞きする中で、情操教育の伴わない情報教育、情報社会は、結果として人の心を傷つける人材しか育てられないように思われてならない。真岡市で学ぶ子ども達が、しっかりとした情操教育を受けられるよう、学校図書館の充実化については迅速に対応してもらいたい。

再質問



「市勢発展長期計画基本構想」について

質問 就業人口は減少を見込んでいるのに、なぜ将来の人口を8万人としているのか。市勢発展長期計画の重さを考えると、明確な根拠を示すべきではないのか。このままで行くと、市当局から今後出される政策も、あるものは「人口増」を、別のものは「縮小社会」を見込み、全く一貫性のないものになるおそれもあるが。

答弁 10年前に策定した第8次市勢長期発展計画では、10万人の人口を目標にしていた。今回、目標を8万人と定めたのは、その後に行われた国勢調査の結果や、他の自治体との比較を考慮してのものである。ただし、あくまでも超長期的な目標であるため、いつ達成できるかについては答弁できない。

真岡鐵道の関東鉄道、つくばエクスプレスとの連携について

質問 例えば、JRでも小山駅などから限定で販売されている割引キップがある。すべての駅での販売にこだわらず、主要な駅から販売を開始する方法もあるのではないかと。また、裏面が磁気のものにする必要性もないと思うが。

答弁 赤字がある中で、体質を改善するにも経費がかかることなので、費用対効果についても考えなくてはならない。また、ワンマン運転であるため、現状では運転士等の負担増も予想される。そうした技術面の課題も含め、慎重に検討したい。

LDやAD/HDの子ども達への対応について

質問 各学校でLDやAD/HDについて周知徹底を図っているというが、現時点で当該者であるなしに関わらず、児童・生徒や保護者はすでにLDやAD/HDに対する正しい認識を持っていると考えてよいのか。この点について、どのように把握しているのか。

答弁 LDやAD/HDの児童・生徒数については、専門機関を通じて調査しているため、教育委員会では正確な人数は把握できていない。

LDやAD/HDの子ども達への対応について

質問 特別支援教育が始まって、小規模校や特殊学級に在籍する児童・生徒が転校を強いられるような事態にはならないと考えてよいのか。

答弁 現在県では、障がいを持った子どもが3名を超える場合、教員1名を新たに配置している。また、市独自に非常勤講師も派遣しており、そうした施策で今後も支援をしていきたい。

再々質問



LDやAD/HDの子ども達への対応について

質問 先ほどの質問では、LDやAD/HDについて、当該者であるなしに関わらず、児童・生徒や保護者が正しい認識を持っているのかと質問したが、

答弁 児童・生徒や保護者は正しい認識を持つまでには至っていないと考えている。

中村かずひと議会レポート



質問:中村かずひこ

12月定例議会

答弁: 福田 武隼 市長
佐藤 務 教育長

質疑 (市が提出した議案に対する質問)



『真岡市に収入役を置かない条例』の制定について

質問 今回の条例案では、助役が収入役の事務を兼ねるとしてある。しかし、**現在も多忙な助役が事務を担っても、市の会計事務に支障が起きることはないと言い切れるものなのか。**

答弁 助役が担う具体的な事務内容は、現金・有価証券などの出納及び保管、小切手の振出し、支出負担行為決議書の確認審査、公金管理委員会の開催、指定金融機関・収納代理金融機関の検査等である。
なお、**収入役の職務を助役が行うことについては、全く不安を持っていない。**

『市勢発展長期計画基本構想』について

質問 基本構想の中で大変気になったのが、人口・世帯の予測である。人口は平成27年に68,900人、将来的には約8万人になると見込んでいる。しかし、就業人口は高齢化に伴い、平成22年をピークに減少すると予測している。**大幅な人口増と就業人口の減少という、相反する予測が記されているのはどういう理由か。**

答弁 人口と就業人口の予測は、いずれも平成12年度の国勢調査を基にして『コーホート法人口推計』に都市開発や産業開発による人口増を加味したものである。
就業人口については、少子化や団塊世代の高齢化により、平成22年をピークに減少するという予測となった。
将来の人口規模を約8万人としたのは、超長期的な目標として掲げたものである。

国際交流・多文化共生のまちづくり について



質問 中学生同士の交流や、市内に住む外国人の状況を見ると、**真岡市は太平洋を1周する形で国際交流をしてきた珍しい自治体と言える。**この特色はもっと強くアピールすべき部分であり、そのためのきっかけ作りが必要であると思う。そこで、**平成20年に日本で開催される主要国首脳会議に合わせて、『環太平洋子ども平和サミット』**(市内の中学生と、国際交流を行ってきた各国の中学生を一同に集めての交流イベント)を企画してみてもどうか。子どもに同行してくる大人の方々とも、意見交換の場を設けることができれば、真岡市のまちづくりにも大きなプラスになると思うが。

答弁 提案された交流イベントを実現するためには、すべての姉妹校が同時期に真岡市を訪問することが前提であり、相手方の意向や費用の負担、言葉の壁など、解決すべき課題が多い。
平成19年に海外友好協会の創立20周年、平成20年には姉妹都市締結20周年を迎えるので、これらの節目の事業の在り方とあわせて、今後、交流イベントの実施は可能か、慎重に検討したい。

真岡鐵道の関東鉄道、つくばエクスプレスとの連携強化 について



質問 つくばエクスプレスの開通によって、**真岡鐵道と関東鉄道常総線を利用して東京へ向かう交通ルートが形成されることになった。**しかし、このルートを使うと、片道で時間が約3時間(下館駅での乗り換え待ち合わせだけでも約30分)、運賃が2,500円もかかる。ダイヤ改正によって、下館駅での乗り換えは若干スムーズになったようであるが、さらなる**利用促進を図るため、真岡～秋葉原間の往復割引キップを新設してみてもどうか。**

答弁 割引キップ等を販売するためには、つくばエクスプレスに対応した最新の自動券売機の設置や、無人駅からの乗客に対応するため、運転士に磁気式券売機を携帯させるなど、**新たな設備が必要であり、直ちに導入することは難しい。**
今後、サービス向上を図る上でどのような連携ができるか、早急に検討したい。

介護予防筋力トレーニング について



質問 今年度から試験的に**介護予防筋力トレーニングが開始された。**真岡市の取り組みで高く評価すべき点は、介護保険の受給者だけでなく、今後各地域で浸透させるため、指導員役割は期待できる方々にも参加してもらったことである。しかし、その方々だけで、すべての地域をカバーしてトレーニングを普及させようとするのは困難だと考える。そこで、現在行われている『はつらつ地域づくり事業』に、**介護予防筋力トレーニングを組み込むことはできないものか。**さらに、今年度指導にあたった理学療法士等を各地域に派遣させることはできないものか。

答弁 今年度、モデル事業を実施した結果、参加者に著しい効果が見られた。
平成18年度以降は、『はつらつ地域づくり事業』の中で導入し、地域公民館等での事業の展開を図っていきたい。また、理学療法士等の派遣についても、関係機関と調整しながら対応していきたい。

LDやAD/HDの子ども達への対応 について



質問 LD(学習障がい)やAD/HD(注意欠陥多動性障がい)の子ども達に対応する『**特別支援教育**』が、平成19年度から全国すべての公立小中学校で始まることになる。(全小中学生の約6%がLDまたはAD/HDと言われている)しかし、**何の情報もないまま『特別支援教育』がスタートした場合、LDやAD/HDという言葉だけが1人歩きをしてしまう危険性がある。**当該者である子どもと保護者は勿論だが、教職員、当該者ではない児童・生徒、PTA、地域住民等にも正しい認識を持ってもらうことが重要であると思う。来年度1年間を費やして、LDやAD/HDに対する**周知徹底を図るべきではないか。**

答弁 各学校において、保護者会や学校だより等によりLDやAD/HD、2次障がい等について周知し、**特別支援教育に対しての啓発を行っている。**今後さらに、児童・生徒、保護者、地域住民に対して、理解と協力を求めていく。

今年4月『休日夜間急患センター』開設へ

1次・2次救急の分業確立に期待

1月6日(金)に行われた芳賀地区広域行政事務組合の会合で『休日夜間急患センター』を今年4月から芳賀郡市医師会館(総合体育館北側)に開設することで、1市5町がほぼ合意しました。

以前は、芳賀赤十字病院に軽度の救急患者までが集中し、本来果たすべき2次救急の機能が低下していましたが、今後1次救急の拠点が整備されることにより、そうした課題の克服に大きく寄与するものと思われます。



休日夜間急患センターが整備されることになった芳賀郡市医師会館

休日夜間急患センターの概要(予定)

診療時間: 休日 9:00~21:00
平日 18:30~21:30

担当する医師: 芳賀郡市医師会会員医師が輪番制で担当

診療科目: 内科・小児科

もう1つの課題

芳賀赤十字病院も...

内科と産婦人科の医師不足が深刻化していた芳賀赤十字病院では、年明けから自治医科大学の協力が受けられることになり、4月以降、同大学病院から医師が派遣される見通しとなりました。



ちなみに、休日夜間急患センターは、宇都宮市や栃木市など、すでに県内9ヶ所で整備されています。

コラム むーあっぴ

皆さんは「のび太・ジャイアン症候群」という言葉をご存じだろうか。正式にはAD/HD(注意欠陥多動性障がい)という。

どこかボーッとしていて集中力が持続しないのび太。すぐにカッとなって暴力的な行動をするジャイアン。『ドラえもん』に登場し、どこにでもいそうな2人の子どものように、ある専門家によれば、彼らは障がい児なのだという。

平成19年度からスタートする『特別支援教育』は、このAD/HDやLD(学習障がい)等に焦点を当てたものである。文部科学省によれば全国にいる子どもの約6%が当該者であるようだ。40人のクラスでは2~3人いる計算になる。まさに「どこにでもいそうな子ども」が対象となるのである。

子ども達にとって必要な教育プログラムであることについては、私も反論するつもりはない。しかし、周囲の人間に与える影響まで配慮されているのか、疑問に感じる点も多い。

子どもが障がいを抱えているという現実を受け入れるまで、親がどれほどの時間を要し、どれほど格闘してきたか。障がい児が通う施設に個人視察を続

のび太・ジャイアン症候群

けてきた中で、私が強く感じたことだ。ましてや特別支援教育の対象者は、18年度まで通常の教室で生活する子ども達である。「おたくのお子さんは障がいを抱えています」といきなり言われ、納得できる親など果たしているのだろうか。

具体的な取り組みについては、今後国から発表される方針を待たなければならないが、その前に各自治体において、時間をかけてやるべきことがあるように思われてならない。

AD/HDやLDの子ども達と向き合う中で最も注意すべき点は、親をはじめ周囲の無理解や偏見が、子どもにとってストレスとなり、障がいの度合いを進めてしまうことだと言われている。だとするならば、教職員、保護者や子ども達(当該者であるなしに関わらず)、さらには地域住民にまで、広く周知徹底を図るべきではないだろうか。「地域で子どもを育てる」ということが叫ばれている今日だからこそ、なおさら必要なことと感ずるのである。

来年春、特別支援教育が始まった時、私達真岡の大人は、子ども達にとって頼りになる「ドラえもん」でありたい。

ぜひご覧ください!
真岡市議会議員
中村かずひこ
ホームページ

<http://www.i-berry.ne.jp/~tonpei>

なお、Yahoo! JAPANで「中村かずひこ」と検索しても、ご覧いただけます。

中村かずひこと未来をつくる会

中村のクリーンな政治活動を支える「中村かずひこと未来をつくる会」では個人献金に限り、カンパを受付けています。頂いたカンパは政治資金規正法にもとづいて適正に処理します。

※入会希望の方は中村までご連絡下さい。
〔振り込み先〕
真岡信用組合本店 普通口座 2099671
中村かずひこと未来をつくる会
代表 中村和彦



中村かずひこ活動日誌

- | | |
|---|---|
| 10/1 西真岡保育園運動会に出席 | 11/18 国道408号バイパス開通式に出席 |
| 3 あいさつボランティア
市政功労者表彰式に出席
県南5市市議会議長会講演会(於:足利市) | 19 明治大学雄弁部OB会総会に出席(於:東京・京王プラザホテル) |
| 9 大谷「伊夜日子会」奉仕作業 | 20 並木町創立30周年記念式典に出席/真岡の自然観察会役員会に出席 |
| 10 さわかちホーム悠々運動会に出席 | 21 あいさつボランティア |
| 14 高根沢町「ひよこの家」、「陸上競技場」を個人視察 | 22~24 「清溪セミナー」に参加(於:東京・日本青年館) |
| 17 あいさつボランティア | 24 真岡地区PTA連絡会との懇談会 |
| 18 介護予防筋力トレーニングを個人視察 | 25 報徳サミット交歓会に出席 |
| 21 明治大学雄弁部OB会幹事会に出席(於:明治大学) | 26 全国報徳サミット真岡市大会に出席
「クリスマスイルミネーション・IN真岡」実行委員会に出席 |
| 24 あいさつボランティア/ライブラリー教室を個人視察 | 27 西郷地区敬老会に出席/「クリスマスイルミネーション・IN真岡」ギャラリーオープニングセレモニーに出席 |
| 25・26 国民健康保険運営協議会研修会(於:群馬県沼田市) | 28 あいさつボランティア |
| 30 「クリスマスイルミネーション・IN真岡」実行委員会に出席 | 30 議員協議会/12月定例会開会
質疑・一般質問の通告書を提出※その後、市の担当部署と内容のすり合わせ |
| 31 あいさつボランティア | |
-
- | | |
|--|---|
| 11/1 「ひばりの会」定例会に出席 | 12/6 「ひばりの会」定例会に出席 |
| 2 会派建議要望の回答書受け取り
佐藤教育長と面会※学校図書館の在り方などについて意見交換 | 8 質疑・一般質問1日目※この日、6人目に登壇 |
| 4 真岡鐵道へヒアリング※関東鉄道、つくばエクスプレスとの連携について | 9 質疑・一般質問2日目 |
| 5 真岡西小学校創立30周年記念式典に出席
「地方自治を学ぶ会」勉強会に出席(於:矢板市) | 12 交通安全指導(高間木の交差点) |
| 7 あいさつボランティア | 13 建設常任委員会 |
| 8 議員定数問題等研究会 | 15 議員協議会/12月定例会閉会 |
| 9 芳賀郡市町議員自治研修会(於:藤原町) | 17 「パーキンソン病 あゆみの会」と意見交換 |
| 11 熊倉町区長(1~4区)と意見交換会 | 20 「ひばりの会」定例会に出席 |
| 12・13 大谷「伊夜日子会」研修会に参加 | 21 ホンダ女子ソフトボール部との交流会に参加 |
| 13 「クリスマスイルミネーション・IN真岡」実行委員会に出席 | 23 豊田守議員監製褒章受章祝賀会に出席 |
| 14 あいさつボランティア | 25 クリスマスコンサートに参加※「クリスマスイルミネーション・IN真岡」の一環として |
| 15 真岡市教育祭に出席/国道408号バイパスを議員団で視察 | 26 ひまわり園を個人視察 |
| | 27 福田市長と面会※休日夜間急患センターなどについて意見交換 |